



浅間 信一 議員

道の駅計画から8年が経過したが

市長は道の駅を一度否定し、今度は、市民交流エリアとして準備委員会を設立し、今後1年かけて具体策を決めていくとしている。そうすると計画から8年が過ぎてしまう。過ぎた8年がいかに大事だったか。労力、時間、費用。相手方の都合等で大きな損失だ。迷惑したのは市民も一緒だ。なぜもっと早く考え直さなかったのか。

道の駅は選挙で中止したが市民交流エリアとして再構築した。市の基本計画にも記載しており、原点に立ち戻って再構築したい。まちづくり基本条例にも沿っている。阿賀野バイパスの開通を見越して取り組んでいきたい。

市民交流エリアとして、新しく内容を見直して再構築することを、なぜもっと早く表明しなかったのか。せめて2年前に見直せば阿賀野バイパスの工事も順調に進み企業誘致等メリットが大きかったのではないかと。なぜ今考え直したのか。

市長に就任した当時、病院問題の対応で大変だった。病院問題を最優先としたが、ただ遅くなったのは反省している。

スピードをあげ多くの人に迷惑をかけないで進めてほしい。

郷病院の耐震と医師確保は

病院の建物は地震に対して大丈夫か、耐震調査すると3年

前に言ったと思うが行ったか。

残念ながら調査をしていない。平成26年の新病院に向けて、それをまず着実に進める。今の建物に金をかけると無駄になる。建物はかなり頑丈に出来ていると思う。

23年度から24、25年度と3年間で医師4名が増員になると説明を受けて来た。23年度に2人の医師の確保は出来ているのか。

3月1日に基本協定に基づく運営協議会があった。23年度の医師の補充はない。

◆その他の質問◆

- ・経済対策
・職員について
・農業問題等



道の駅のイメージ

となる。今年への対応として、大型扇風機を学校に配置する。



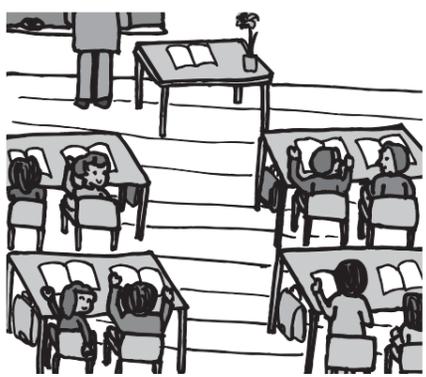
岡部 直史 議員

夏期の学校の猛暑対策を

記録的な猛暑のなかで、安心して学習できる環境づくりのため、クーラーを教室に設置することを問う。国が示している適正温度は、25度から28度だ。

学校別の冷暖房機器設置状況を示す資料にもとづき、計画的に実施することを問う。

職員室や特別教室に順次クーラーを設置してきたが、普通教室への設置は中期的な検討事項



学習補助教員の増員を

合併後の財政難のため教育予算が大幅削減となり、市費で配置されていた学習補助教員が減少されてきた。教育現場の困難性や学級の維持、基礎学力の向上のための支援教員の増員を問う。

一人一人に確かな学力を

保証するため、県の配置教員だけでは十分対応できない。学校現場からの配置の要望に応え、現在2名を4月より8名に増員する。

市発注工事の下請けは地元業者を

来年度以降に、学校耐震改修工事や水原中学校改築工事が計画されている。

これまで行われてきた学校耐震改修工事では、下請け工事に地元業者の参入が少ない。阿賀野市産業経済振興条例では『経済の地域内循環』が重視されており、市の税金で行う事業は極力地元で還元できるように、地元業者への発注促進に努力するべきだ。

学校耐震化工事は大きな事業費であることから、機会をとらえて『市内業者で可能な工事は地元業者へ』と請負者に要望したいと考えている。



雪 正文 議員

阿賀野市創造・再生のための基本理念は

現在の日本、また阿賀野市は、明るい未来への過渡期にあると考えている。将来展望が見出しにくい厳しい時代ではあるが、『昨日を捨てて明日に生きる覚悟』を持ち、事態打開の努力を真摯に続けることで、必ず明るい光が見えてくるものと信じている。阿賀野市創造・再生のために、市長はどのような基本的な考えを持っているのか問う。

市総合計画・基本構想の

中に、まちづくりの基本理念を示している。「まちづくりは人づくりである」ということを基本におき、「このまちに住み続けたい」「このまちに住みたい」と思えるまちを実現するために5つの理念を掲げている。中でも昨今の経済、行政状況等を勘案した場合、「協働と責任のまちづくり」をより一層推進したいと考えている。

阿賀野市活性化のための基本方針は

状況の変化に即応する柔軟性が求められる中、さまざまな選択を迫られる局面で、市長は阿賀野市を誤りなき方向へと進めるため、何を基準に選ぶべきと考えているのか。阿賀野市活性化のための基本方針について、具体的な考えを問う。

今後10年間の本市の姿を「人・まち・自然が輝く 幸福社



福住つゆ子 議員

突然副市長辞任・なぜ?

昨年4月やっと副市長が任命され、これで市政運営が正常化する期待したのも束の間、この1月に辞任、就任期間はたった9カ月。この事態を招いた市長の任命責任と辞任した理由を問う。

1月11日に辞任の申し出があった。その理由は①郷病院の公設民営化が実現したこと。②庁内の行政事務の執行がスムーズにならなかったこと。などであった。あま

りにも突然だったので戸惑い慰留したが本人の意思が固かった。

市長自らが出むぎ三顧の礼でむかえた副市長選任の議案の提案理由の説明には、『市のため』『市民のため』にという大前提の上になった大変重要な意義が2つあった。

一つは病院の公設民営化
一つは議会と良好な関係を築くことである。これに間違いはないかを問う。

間違いはない。

この2つはまだ達成されていない。公設民営化は入口で救急医療を含めた医療体制の充実・経営健全化に向けた取り組みを見守る必要があるし議会とはいまだ良好な関係とはいいがたい。市長は議会と向き合うことから逃げていない。民主主義とは議論を重ねて一つの合意を得る作業を積み上げてゆくことである。市長はそれを回避し話し合いをさげ、何

都市「阿賀野」とし、これを実現するために前期・後期の各基本計画に各種政策を掲げ、必要な時点修正を加え、限られた財源と人員の中で市民が最も求めている行政課題(サービス)に経営資源と人員を集約的に投下していく必要があると考えている。本定例会に上程した「まちづくり基本条例」の理念に従い、市民ニーズや関係機関からの意見を行政サービスに反映するため、市民が参画する「協働のまちづくり」を進めることを基本に行政運営を進めていきたいと考えている。



事も議会が悪い、職員が悪いでは市政は後もとりするばかりである。全体の奉仕者としての職務が何であるかを自覚してほしい。円滑な行政の執行は職員のガンバリでどうにか維持できている現状で、副市長不在のまま後1年あまりの任期をどうのりきるのか問う。

議会でも、又、個々の議員から政策提言を戴き、私の考えを述べ議論を深めていきたい。

